

# 「 さ さ え 」

2018年1月発行 情報誌 第62号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田 4395 (福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail [npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp](mailto:npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp)

新 URL <http://npofukusiyougu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目13-5

**福祉用具はあなたの自立をささえます。**

**あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。**

NPO福祉用具ネットは『抱え上げない介護技術』を推進します。写真のような介護はやめましょう。



洗髪シャワー



NPO福祉用具ネット開発品第1号

【製造元】

(株)福祉SDグループ

平成27年より、充電式も発売開始。

【発売元】キヨタ(株)

**NPO福祉用具ネットが関わった  
主な開発協力品**



アルファブラ  
ソラ クッション

SORA



尿吸引ロボ「ヒューマニー」



特定非営利活動法人

**NPO福祉用具ネット**

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

## 福祉用具と社会福祉学

NPO 福祉用具ネット理事長 豊田謙二

社会福祉学部では、社会福祉士などのソーシャルワーカー養成が極めて重要な課題です。ヨーロッパではソーシャルワーカーは社会的支援での不可欠な専門職であり、看護師よりも高い報酬を得ています。ここでは、その社会福祉学の分野において、たとえば私の担当の「社会福祉学原論」においても、福祉用具の活用や住宅改修などが取り上げられていないのですが、その背景をさぐり、ではどういう取り上げかたが必要であるかについて私見を述べてみたいと思います。

さて、ソーシャルワーカーの職務については「社会福祉士及び介護福祉士法」(1987年)に定められていますが、その基本は「相談・支援」、さらに「コーディネート」にあります。

少し具体的にその活動を描いてみます。

生活において自分で解決できない何らかの困難さを抱く人に関して、「相談」としてその人の生活に向き合いながら、「傾聴」に徹しつつどこに課題があるかを「気づく」ように進めます。貧困などの「もの」に関するものであれば市町村の社会的な支援制度の利用を探り、孤立などの人間関係に関わる「こと」であれば近隣の人の「集い」の場づくりを検討するでしょう。

生活支援が、ソーシャルワーク実践における専門性の中心にあります。それは、その人の生活への「介入」と表現されます。「介入」とは、人と生活資材とのあいだに、あるいは人と人とのあいだに、前者では生活保護法のような社会制度の活用によって金銭などの援助を、後者では集い場づくりの活動によって人と人とをつなぐことを試みます。

ここで申し上げたいことの一つは、私たちは「あいだ」のなかで生活をしている、ということです。自宅という「あいだ」のなかで、より落ち着くために「あいだ」を仕切ります。たとえば、「居間」と「客間」などに仕切って、「間」を設けます。

また、古代ローマ人の表現に倣っていえば、私たちにとって誕生とは人は人のなかに生まれてくることであり、死とは人々の集まりから別れることなのです。つまり、人間は生まれながらにして、人の「あいだ」に生きることが運命づけられているのです。ですから、人間という漢字では、「人」と「間」をつないで表現しています。ですから、日常生活において人間関係を失うことは、まさに「社会的死」そのものであります。

この情報誌「ささえ」は、NPO福祉用具ネットを支える会員のあいだをつなぎ、またその活動が会員とその他の人々をつないでいます。その活動が停止さ

れば、つながっている人間関係は失われます。このNPO法人は福祉用具が生活のQOL向上に役立つことを訴えて、2000年の介護保険法施行に先立って設立されました。と同時に介護保険法に使用される「福祉用具」の名称を先取りして使用しています。その福祉用具は、人と建物や、あるいは人間と人間のあいだに置かれて生活の安全性や利便性の向上に寄与しています。

福祉用具という車椅子は、車椅子利用者を街のなかに、さらに人との出会いに向けて、自力での移動を可能にさせます。つまり、利用者と「街」、利用者と「人」とのあいだをつないでいます。

「こうしゆくゼロ推進協議会」は、その設立趣旨において、「人力介護をやめ、北欧の様に福祉用具を当たり前のようを使いこなす日本にしようではありませんか」と訴えています。「人力」とは、抱え上げること、つまり入浴者と介護者との直接的な身体の接触です。人の力での「抱え上げ」から、「リフト」という福祉用具の活用へ転換を促しているのです。くどいようですが、入浴者と介護者の「あいだ」に「リフト」を導入



写真：リフト

することです。

さて、ソーシャルワーク実践の始まりの頃、19世紀の半ばのドイツでの事例を紹介します。ひどい貧困の時代でしたので、子どもを養うためにも、夫婦の共働きが不可欠でした。そのためには超えるべ

き課題がありました。自宅にいる子どもの世話(=ケア)のことです。子どもをケアすることで、家族を支援する、その社会的支援を「創る」ことが求められました。

この状況を乗り越えるために、子どもを日中(=デイ)に預かる仕組みが始まります。これが「デイサービス」の始まりですが、やがて施設として普及します。ドイツ語で「Kindergarten」(=キンダーガルテン)、英語でも同じ表現です。日本に導入された時に、「幼稚園」と命名されました。

このデイサービスは、子どもと両親の「あいだ」に、子どもを預かる「人」を置きました。ソーシャルワーク実践の一例です。ソーシャルワーク実践としての「創る」ことの良い例ですが、弱点は「モノ」、福祉用具をあいだに置く実践に弱いことです。社会福祉学は社会的支援としての「あいだ」に人と、同時に「モノ」を置くことを学ぶ必要がある、と思われま

## 熊本地震による被災者の「語り」から学ぶ「住まい」のQOL<第3回>

リハビリ・デイサービスセンター「しん」代表社員

杉野哲裕（理学療法士・介護支援専門員・福祉住環境コーディネーター2級）

熊本地震により、仮設住宅での生活を余儀なくされたあるご夫婦の直接的な素朴な「語り」は、私がこれまで多くの福祉住環境整備に携わって作って来た概念を一気に覆される結果となりました。

これまでの2回分を振り返ってみると、第1回目は「玄関の鍵」がテーマで、仮設住宅という新しい住まいの中で、なかなか鍵の操作を身につけることができないという「セキュリティへの恐怖」を考えさせられました。同様に、第2回目は屋外に設置されている「消火器」がテーマで、「火災発生時における生命確保」について考えさせられました。これらのことから、私は理学療法士として、福祉用具の活用や住宅改修などの福祉住環境整備を実施する際、見落としがちなその重要な底辺について、見つめ直したところです。

そのような中で、今回はその仮設住宅で奥様が「ご主人と充実した食事をしたい」という思いから、娘様と作り上げた臨機応変的な発想を紹介します。その意味は調理の中身のことでなく、「限られたスペースの中で、いかに食器の準備や片付けを効率的に行って体の疲労を防ぎ、食事をゆっくりと楽しむか？」ということです。図に示すように、仮設住宅におけるキッチンとはとても狭く、食器入れを置くと、調理のための残りのスペースは、小さなやかんが置ける程度しかありませんので、まな板も小さなタイプしか使えません。よって、同時に多くの食器を並べることはできず、「一皿ずつ盛りつけてテーブルに運び、その後、また、盛り付けて運ぶ」ということを繰り返さないといけないのです。一見、それほど負担を感じないようなさりげない動作の繰り返しのように思えますが、ただでさえ、大地震で「これまでの住み慣れた住まい」が奪われて、心身の疲労が高まっている中でこの動作の反復は、高齢のご夫婦にとっては、多大なストレスの一つだったのです。



図 仮設住宅のキッチン

図にはキッチンと同時に玄関を示していますが、ここで示す臨機応変的な発想とは、キッチンの左側に隣接している靴の収納棚の一番上の部分を、食器を置くスペースに代用させたことです。通常、靴の収納棚に食器を並べるなど、とても発想されるものではありません。それは現実的にキッチンと玄関が隣接することや、靴と食器と一緒に存在することなどあり得ないからです。

しかし、ここで大事なことは、食器を運ぶために、また、食器を洗うために何度もキッチンとテーブル間を往復することを余儀なくされ、しかもそのことが毎日繰り返されることによって、お二人には楽しいはずの食事の時でさえも、心身の疲労が増幅し、心の余裕が得られていなかったという事実です。食事は「ヒトの生活」にとって、体を丈夫に保ち、心を安め、家族のコミュニケーションを図るためにとても重要な要素です。仮に体が疲れていても、食事を一緒にする時間は家族の絆を高め、心が安らぎ、体の疲れを癒すのは間違いありません。つまり、このご夫婦にとっては、靴の収納棚に食器を置くことなどないという一般的な概念よりも、それを敢えて行うことによって、疲れて食事をするの方を回避したのです。

実際、この仮設住宅内においても、浴室の手すり設置など、基本的な福祉住環境整備が施されています。しかし、高齢下での予想外の日々の心身疲労の積み重ねは、その手すりなどを活用することで楽になるどころか、「ふーふー」言いながら、その手すりを活用するという状態になり得ます。つまり、福祉用具の活用を含め、私たちが福祉住環境整備を実施する時には、それに影響する心身の疲労感を根底に踏まえ直すことが大事です。

お二人が全く想像することなどなかった大地震による仮設住宅での生活は、これまでの余裕のある行動範囲を妨げられ、日常生活における十分な心身の余力を奪われました。「せめて食事の時くらい、これまでと同じように、ゆっくりと心が落ち着いた時間になりたい」という素朴な「語り」は、私にとって、仮設住宅における「住まいのQOL」を考える重要な出来事になり、決して忘れることができないものになりました。



## 看護、介護スタッフの皆様へ 忘れないでください。

～患者家族の声～ 患者家族Bより

数年前、私の両親は体調をくずし相次いで入院生活を送りました。親の入院生活中には辛かったことがいくつもありました。特に、スタッフさんの対応で辛かったことは忘れられません。親の病衣の汚れに気づいてもらえず、そのことを勇気を出して申し出た時、対応してもらえなかったことです。悔しかったです。何が悔しかったのか、それは患者家族の声に耳を傾けてくれなかったことです。わかろうとしてくれなかったことです。病衣は決められた日に着替えさせているから、私の申し出は勘違いだと頭から決めつけて聞いてもらえなかったことです。

親の襟元についた数センチのシミは大したことありません。それが放置されたままで着替え日に着替えていなかったことに気づいた私は、当初「私のかんちがいただろう。」と思い込もうとしました。なんども、カレンダーを見直し手帳を見て自分の行動を振り返りました。毎日、面会をしていた私はシミを初めて確認した日を覚えていました。家族と「シミがあるね。スタッフは忙しいから次の着替えの時にお願いしようね。」と話し、我慢していたから覚えていたのでした。

着替えさせ忘れと確信したとき、看護師さんに控えめに病衣着替えの曜日を確認しました。月曜日と木曜日でした。私は、そのころ混乱していて曜日の感覚があまりありませんでした。「忙しいだろうから後で手がすいた時にでもお願いします。」とお願いしました。それでも、「そんなはずはない。」と、聞き入れてもらえませんでした。もう一度、お願いすると「今は、食事介助で忙しいので後でしますね～」といわれ、そこでお願いしますと頭を下げて帰路につきました。

その頃、私は認知症の父と毎日、面会をしていました。父の前であまりことを大きくすると、父の行動がたちまち不穏になってしまいます。冷静でいる必要がありますので、ぐっと我慢しました。父と手をつなぎ、病院の玄関を出てふと「あ……。今日は木曜日だ。やっぱり、お母さんは忘れられているじゃないか。」と気づきました。もう、そうなるといてもたってもいられなくなり、身体中が震え始めました。そして、父に忘れ物をしたから、もう一回、お母さんのところに行ってもいいかと確認し、病棟に戻りました。

すると、先ほど対応してくれた看護師さんがいました。私は嗚咽をあげながら訴えました。「日曜日に確認したシミが木曜日の今日もまだついている。」と。するとその看護師さんは「じゃ、後で着替えさせておきま

すね～」とけろろといいました。その時、私はなぜ、こんなに切なく悔しい自分がいるのかと気づきました。「私は、今すぐ着替えさせてくれとか、着替えさせていないことを責めようと思ってここに来たんじゃない。あなたは、私の言葉に耳を傾けようとしなかった！母の、病衣のシミを確認しようとしなかった。そのことをいいに来たんです。」と泣きながら伝えました。そして、父の手を引いて帰りかけた時、耳を疑うような言葉が投げかけられました。

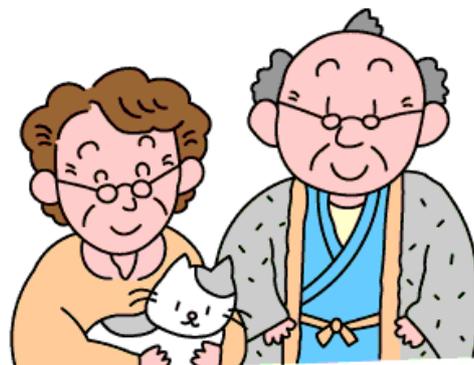
「おかしいですね。今日は入浴日です。入浴日には皆さん、着替えるんですけどね。」

うちの母には入浴許可がまだ下りていませんでした。

「うちの母は、まだ入浴許可が出ていません！」冷静に答えるなんてできませんでした。ここまで患者家族が辛い気持ちを言葉にして表現しているのに、それでもまだ追い打ちをかけて患者家族に対抗してきてしまう。翌日、その方は謝りながら私の肩をポンポンと叩きました。その手を払いのけることができなかったのが悔しいです。

スタッフも家族もみな個性のある人間であることはわかります。その方はご機嫌斜めの日だったのかな？なんていくらの広い私でも受け止めることはできませんでした。

スタッフは医療の専門家、介護の専門家です。もちろん患者家族はむちゃで理不尽な要求をスタッフにしないよう自制する必要があります。スタッフの人権は守られなければなりません。しかし、どうか、みなさん専門家でいて下さい。



もうずいぶん前の出来事ですが、このことを思い出すたびに悔しさ、

情けなさ、切なさがこみ上げてきて苦しくなります。

父は不穏にもならず私と手をつないで一緒に帰宅してくれました。お父さんありがとう。

# 2018年度第19回 西日本国際福祉機器展

## NPO 福祉用具ネットブース出展各社様の感想

11月16日木曜日～18日土曜日の3日間、西日本国際福祉機器展が開催されました。NPO 福祉用具ネットブースに出展した企業の皆様に、「来場者との交流を通しての感想」や「手ごたえ」「今後の抱負」など、ひとことメッセージを寄せていただきましたのでご紹介します。

### 大和ハウス工業株式会社

玉里 雅美

西日本国際福祉機器展では、ここ数年『排泄機器』コーナーで展示させて頂いております。「新型自動排泄処理装置」と「尿吸引ロボ ヒューマニー」を展示している中で一番思うことは、想像以上に皆様に知られていないということです。東京や大阪の大きなイベント、ならびに各地の主要な展示会には参加しています。それでも、ご存知ない方が多いです。説明させていただくと、大変興味を持っていただける商品ではあります。（残念ながら、ヒューマニーは平成29年9月末で本体は製造中止になりました。今後5年間はメーカーであるユニ・チャーム ヒューマンケア（株）がタンクチューブセットや採尿パッドの供給をします。）

介護の場面で、排泄介護は避けることはできません。我々は、将来「必ず役に立ち、必要になるもの」と信じて、日々、営業活動とお客様との関わりを大切に、事業をすすめております。すでに「新型自動排泄処理装置」は改良され、機体は小さくなりました。しかし、もっと皆様にとって使い勝手の良いものにしていきたいと思っています。今後とも当事業に対するご理解・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

### ニシキ株式会社

江副 正典



メーカー単独ブースでなく、排泄つに関する各メーカーの総合展示コーナーでの提

案は、お客様にとっても個々の問題を総合的に解決策を見出そうと来場されており、その立場での見方ができ、気付かなかった用具にも触れられた事は良かった。また、単純な商品展示でなく体感する事での用具の理解度アップは大変有効である。我社も、実際体感してもらった消臭実験もその一つであった。消臭関連商品「消臭すべり止め防水シーツ・マルチマット・失禁パンツ」であり、その機能性としては必要なものであり、それが実際に目に見える形で瞬時に臭いが無くなることに一同に驚きがあった。この事で、在宅介護の悩みもモレと臭いの相談が多く、実際に商品を手に取り機

能性をビジュアルに説明できた事は、お客さまにとっても使い方のイメージに繋がった。今後も、実態の生活の場における困りごとを理解した上での、商品紹介に注意しなければならない。

### ユニチャームメンリック株式会社

九州営業部部長 大家 隆行  
今回初めて出展させて頂きまして誠にありがとうございました。



来場者の皆さまが熱心に介護に関する情報収集をされ

ているのが印象的でした。来場者の皆さまとのやり取りの中で、改めて排泄ケアに関する情報が不足していると感じましたので、当社の理念「誰でもいつでもどこでもその方にとって最適な排泄ケアが受けられる社会を目指して」に基づき、今後さらに排泄ケアを受ける当事者の方、ご家族、介護専門職の皆さまに情報発信ができるような仕組み作りにも貢献できればと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 日本セイフティー株式会社

ラップオン事業部  
営業部長 餅月 忍

この度、西日本国際福祉機器展に出展をさせて頂き弊社の自動ラップ式トイレ「ブリオ」を多くの方々に見て頂く事ができました。

今年6月から新発売で、



汚物を自動でラップする迄を音声ガイダンスで説明する機能がつきました。西日本国際福祉機器展では地元テレビでも取材をして頂き多



くの方に認知して頂く機会を頂きました。まだまだ、認知度が少ない商品ですがこれからも多くの方に見て頂く機会を頂き頑張って参ります。

## 株式会社福祉SDグループ 松原 昌三

高齢化はますます進みこのままでは大変なことになるので、今回のような福祉用具の展示会が非常に重要である。介護用洗髪シャワーを交流式、充電式、乾電池式と3種類準備し、その商品の手応えを計った。反応としてはそれぞれ電源別に用途に特長があり、2から3の商談があり、現在具体案を検討中である。身体や頭髪を毎日洗うことは、高齢者がだんだん元気になって、介護から遠ざかり100歳寿命という目標に向かっていくものと信じる。介護機器も使えば便利になる(ロボット化になる)だけでなく、だんだん元気になって高度な機能をみにつけられるような高付加価値商品を目指すべき(賃金がアップ)であろう。次の福祉機器の市場に対し、即ち東南アジア市場に対し今のうちに下地を作っておくために東南アジアの文化の調査を含め、市場に来年中には参入していくことを目標としたい。

## 一般社団法人 日本介護美容セラピスト協会



曾我部 恵子  
私たちは、スキンケアやメーキャップ等を通して、肌に触れることで健康を促す「心と体の美容療法」ビューティタッチセラピーを提案しています。

高齢者の「笑顔」と「元気」「自立支援」を目的とした活動です。今年は認知症予防に期待できるアロマ2種もご紹介しています。展示会では、セラピーの体験こそ出来ませんでした。ハンドセラピーレッスンやアロマレッスンには、多くの皆様に参加いただきました。真剣に取り組んでいただいた方、楽しそうにされている方、またセラピストに興味を持っていただいた方もいらっしゃいました。年々ビューティタッチセラピーに共感いただく方が増えていると実感しています。しかし、まだご存知ない方、体験された事のない方が多いので今後も引き続き、体験のご紹介やセラピスト育成に努めてまいります。

## 株式会社フラッツ 今村 俊之

福祉関係の業者様やお客様とたくさん出会って、今後の営業活動に反映していけそうです。NPO 福祉用具のお仲間たちにも協力させていただきます。私としては初めての参加となり、段取りが不十分であったことは否めませんが、来年に向けてのこうやって

いこうというイメージは充分できておりますので、今回は展示も含めバージョンアップして参加させていただきます。また、仲間の方々とも仲良くしていきたいと思っております。

## (有)三電 清水 隆師

来場者数は去年をしのぐ勢いがあり、近年介護リフトの認知度が上がっていると感じる展示会でした。厚労省の腰痛要望指針の改定から「抱えない」「持ち上げない」利用者、介助者双方にとって安楽で快適な介助方法、また施設・管理運営側から見ても業務の標準化(クオリティーの統一)や人材確保や職場定着のための環境整備として費用対効果が認められるツールとして一層の活躍の場を担えると感じる熱い三日間でした！介護リフトは移乗の為の道具ですが、我々は3つのカテゴリでリフトの提案をしています。1.「トランスファー」言うまでもなく正に抱えないという分野です。2.「メディカル」歩行訓練や、筋緊張を緩和した状態でのリハビリテーション。3.「セラピー」ハンモックの特性を利用した筋緊張の緩和からの動作。(有)三電は今後も色々な可能性を提供できる企業を目指して邁進してまいります。

## 住友理工株式会社 高垣 裕平

こんにちは！フコク物産の高垣です。今回の西日本国際福祉機器展では、体験型展示ということで、多くの来場者の方にSRソフトビジョンを使った体圧の可視化を体験頂くことができました。発売より約5年が経過し、多くの方にご愛用頂けるようになりましたが、まだまだ知らない方も多いのも事実。「体圧測定ってこんなに簡単にできるんだ！」や、「体圧測定するとこんなことが分かるんだ！」というようなサプライズを通じ、ケア技術の向上や福祉用具開発に貢献していきたいと思っております。



## 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

### 九州支部 山形 茂生

今年は、最小限でのスペースでパネルと「福祉機器コンテスト2017の受賞作品」や「第33回リハ工学カンファレンス in あつぎ」のチラシなど展示を行いました。

た。来場者の方とお話をしたら、家族介護をされている方などが、何が解決できるのか暗中模索の状態で行



らしているご家族の方もいらっしゃいました。お話を聞くことしかできませんでしたが、このような方が、相談する場所が会場内にあると良いかもしれません。

また、当協会としては、福祉用具を来場者の皆様に知っていただくために、会場内の用具の使い方などの説明をしながら巡るツアーのようなことができると良いと感じています。特に先に述べたように家庭で介護をされているご家族の方など、福祉用具が身近で使いやすい用具であるということをお伝えすることができればと感じました。

## 株式会社タイカ

牧 孝博



第19回西日本国際福祉機器展へのご来場ありがとうございます。今回はポジショニングの体験型コーナーで静止型ハイブリッドマットレス「アルファプラ ビオ」と「ウェルピ

ーHC」の組み合わせを多くの方にご体感頂きました。まだまだ在宅では体位変換器が貸与出来ることをご存知ない方や正しい当て方のポイントが伝わっていないケースがあることを改めて実感致しました。会場にて皆さまよりお寄せいただいたご要望やご期待のお声を、よりよい商品作りやセミナー活動につなげてまいります。今後とも、変わらぬご愛顧とお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

## 株式会社 cocofama

佐々木 寿生

まず、2年続けてブースを出させて頂いたNPO福祉用具ネット様へ感謝申し上げます。

昨年もそうですが、お客様が目的としておられるものと異なることから、足を止めて頂ける方が少ないのは致し方ないと思っておりますが、それでも、皆さんが経営者の方などご紹介いただき言葉では言えないくらい申し訳なく思っております。

おかげで数名程度の方に真剣にお聞きいただいたことは、うれしい限りでした。

今回、私どもの御紹介するシステムは、従業員を大事に考える経営者や管理者の方々の必ずお役に立てるものと思っております。今は、未完成なものですが、より良いものにしていくためにも御協力頂ければ幸い

です。

## 福岡ひとにやさしい介助を考える会

海尾 美年子

キネステティクス®という「人の動きの分析」を介護に活かす一つの手段として体験していただきました。介護の場面で、「抱え上げない介護」を介護する人、される人の立場で体験してもらいました。頭でわかっている、体験して初めて「えーっそうなんだ」、「抱え上げない介護」を是非現場にとり入れたいという感想をたくさんいただきました。体験会を始めて5回目となりますが、まだまだ知られていないキネステティクス®の考え方をもっと、たくさんの人に広める必要性を痛感した体験会でした。



## 株式会社クローバー

内山 知史

今回もNPOブースにて商品説明を行ないました。専門学校で学生さんが近年増えてきたように思います。持ち上げない介護を実際の用具で体験してもらえればと思います。一般の方で来場される方は、やはり意識が高く、福祉用具の重要性を理解していただいている方の割合が現場よりも高いように感じます。学生さんは、まだ実務経験での苦労がないため、福祉用具を使うメリットをあまり感じていないようですが、便利であるもの、楽にできるものがあるという事を一つでも覚えておいてくれるといいなと思っています。そして、今後より一層介護業界の人手不足と全体的に介護側のマンパワー不足が進むと思われますが、福祉用具を活用して、活気のある社会が形成できればと思います。

## 福岡県立大学福祉用具研究会

中藤 広美

1998年に誕生した研究会は来年、発足20年になります。発足後数年間は福祉用具展示会、福祉用具選定セミナーを開催したり年間9回の研究会を開くなど多様な活動を展開してまいりました。その後2002年秋に本会からNPO福祉用具ネットが誕生し、それ以降、研究会では事例検討、開発商品に対する専門職からのアドバイス、商品の紹介などを中心に展開しています。来年度のテーマも決定しそろそろ会員募集を始めるところです。多職種専門的視点から福祉用具に関する事を検討しあう研究会を継続していきたいと考えています。今後ともよろしく申し上げます。



新年、明けましておめでとうございます。  
本年も宜しくお願い申し上げます。

### 事務局だより

《29年10月から12月までの事務局のうごき》

#### 平成29年9月の追加

9月24日 リハ学習会

情報誌ささえ61号発送

#### 平成29年10月

##### 抱え上げない介護技術三部開催準備

10月2日 福祉用具相談

10月4日・5日 開発相談（東京）

10月7日・8日、10月15日 3日間

キネステイクス®アドバンスコース

10月11日 事例相談

開発相談 福岡

10月18日 企業来訪

10月21日 研修会場設営

10月22日 抱え上げない介護技術セミナー三部

リーダー養成コース開催

10月24日 第7回福祉用具研究会

事例相談

10月25日 事例相談

10月26日 開発相談

#### 11月

##### 西日本国際福祉機器展準備

11月1日 事例相談

11月4日 事例相談

11月6日 開発相談

11月7日 福祉用具相談

11月9日 TVQテレビ取材（事務局）

11月10日 開発相談2件

11月14日 テレビ取材2社同行（飯塚市・嘉麻市）

11月15日 設営

11月16日 KBCテレビ放送（きのこグリッパ）

11月16日～18日 第19回西日本国際福祉機器展

3日間の来場者数 22,111人（昨年度19,903人）

11月18日 NPO福祉用具ネット15周年イベント

11月17日 TVQテレビ放送（抱え上げない介護）

11月20日 事例相談

11月21日 RKB今日感テレビ放送（きのこグリッパ）

11月22日 開発相談

11月27日 第8回福祉用具研究会

11月29日・30日 開発相談（東京）

#### 12月

12月1日 事例相談

12月2日 忘年会

開発プロジェクト会議

12月3日 抱え上げない介護技術学習会

12月5日 企業開発相談

12月10日 キネステイクス体験講座

12月19日 第9回福祉用具研究会

情報誌ささえ62号 編集・校正・印刷・発送準備

《今後の予定1月から3月まで》

1月6日～8日 高知研修会

1月28日 抱え上げない介護技術学習会

2月23日 九州安寿会出前講座

3月理事会 情報誌63号発行準備

会員更新手続き開始・福祉用具研究会会員募集開始

### 西日本国際福祉機器展のご報告

日時 平成29年11月16日～18日まで3日間開催

会場 西日本総合展示場 新館

◆セミナー開催（19のテーマを主催）

保田淳子氏の福祉用具活用セミナー【2テーマ】

キネステイクス®体験講座【5回】

おむつ検定受検対策講座&おむつ検定

NPO福祉用具ネットブースセミナー【11テーマ】



◆企画展示（16の関係企業団体と共催）

○排せつケア用品紹介コーナー

ポータブルトイレへの移乗コーナー

○福祉用具体験コーナー

・介護ベッドの使い方・リフトの使い方

・ボードやシートを使った移乗体験

・体圧測定コーナーなど



### 平成30年度の会員更新手続きのお願い

1月から会員の更新手続きを開始致します。

3月末までの会費のご入金をお願い致します。

また、新規の会員募集もしています。

詳しくは事務局までお問い合わせください。